ご来賓挨拶

菊池稔
在モンゴル日本国大使館臨時代理大使

みなさん、こんにちは。在モンゴル日本国大使館臨時代理大使菊池稔です。このたびは、日本語教育シンポジウムの開催おめでとうございます。本年は日本とモンゴル外交関係樹立 45 周年の年であり、またモンゴル日本人材開発センター設立 15 周年を迎える記念の年であります。このような記念の年にモンゴルにおいて日本語教育に携わる皆様が一堂に会するシンポジウムが開催されることを大変うれしく思います。

このたびのシンポジウムのテーマは「読解力」ということですが、インターネットを通じて外国語の文章に触れる機会が非常に身近になった現在、外国語の読解力を伸ばす教育というのはモンゴルでも日本でも共通の大きな課題であると思います。日本語学習者の読む力をはぐくむために、モンゴルで日本語教育に携わる先生方がこの一年のあいだ資料を集め、研究してこられたと承知しています。その成果をもとにディスカッションし、日本からお越しの専門家の先生方よりアドバイスを頂くことで、今後のモンゴルの日本語教育がさらに発展することを望んでおります。

モンゴルで日本語教育が始まって以来、40 年以上の時が経ちました。モンゴルにおける今日の日本語教育の発展は、日本語教育に携わってこられた一人一人の先生方の尽力なくしてはありえませんでした。日本に関わる皆さんのその熱意を心より嬉しく思います。そしてまた今日、これまでの歩みを将来へと受け継いでいく若い先生方、若い学生の皆さんの日本語をよりよく教え、学ぼうとする姿勢をたいへん心強く思っています。

最後になりましたが、このシンポジウム開催に当たりご尽力いただいた日本語教師会、関係者の皆様方、また、日本からお越しくださった松下先生、奥泉先生、そして 2 日目に基調講演をなされるオユンツェツェグ先生にもお礼を申し上げます。

今回のシンポジウムの成功を心よりお祈り申し上げます。ありがとうございました。

ご来賓挨拶

S. BOLORMAA
教育文化科学スポーツ省 初中等教育局 局長

代理 G. MYAGMAR
教育文化科学スポーツ省
入学前教育・初等教育局 局長

皆さま、こんにちは。最近の 20 年間において、モンゴル国では教育制度改善が幅広い範囲において行われ、入学年齢は 6 歳になり、総合教育学校の学習学年を 2004 年から 11 学年制度に、2008 年から 12 学年制度に移行されています。この移行に伴い、学習プログラムの更新、教科書の改善といった活動も行われています。これらのすべてが 21 世紀に活躍できる世界の人材育成に努める、国際基準にあった高度教育を母国で取得できるようにするためであります。

この数年間は、教育部門の海外交流が広がっている中、モンゴルと日本両国の共同交流はさらにダイナミックになってきています。例えば、文部文化科学省が日本の JICA と共同し、数多くのプロジェクト実行に取り組んでいる中、2006－2009 年に 2 段階において「学習者の学習活動を支援する方法の開発」、「教授法の開発と展望」プロジェクトが実施されました。この結果、小・中学年の教師たちの教授法が変えられ、日本人教師が広く利用する授業研究法がモンゴル国にあるたくさんの教育機関に導入されています。

今回のシンポジウムが「読む力を育てるために一読解とは何かー」というテーマの下に開催されていることは大変意義のあることだと思います。読む力とは、単に国語科目に限って必要とされる力ではなく、一人前になろうと努力する誰もが獲得すべき基本能力であります。そのため、格人々に、積極的に読む方法を身に付け、読んだものを正しく理解し、重要な情報を選び出し、分析し評論するといった多くの能力を自分の物にする必要があります。我が国の総合教育学校で学習している国語・文学学習プログラムの中に、読解能力の開発方針が取り上げられていますが、学習側と教授側のいずれも完全に身に付けることができずにいます。

モンゴル国政府が、2016－2020 年度に実行しているプログラムの中に、「学習者が取得する母語教育のためのモンゴル語学の総合改善及び実行」という重要なことが提案されました。モンゴル政府によって実行される小・中等教育におけるモンゴル語学学習プログラムの更新・改善は、今回のシンポジウムから出てくるアイデア・教えにより大変実りの多いものとなるに違いありません。

皆様、発表に関する質疑応答に積極的に参加なさり、貴重なアドバイスを下さるようお願い申しあげます。

当シンポジウム開催の主催者である独立行政法人国際交流基金、モンゴル日本語教師会、モンゴル・日本人材開発センターに心から感謝を申し上げます。

本日のシンポジウムのご成功お祈りします。発表者の皆様のご成功お祈りします。ありがとうございます。